

7. 熊本県内の木造建築物

熊本県内には、国宝に指定された青井阿蘇神社の楼門をはじめ、何百年もの歴史のある木造建築物がたくさんあります。また、近年、公共施設をはじめ、新しい工法を取り入れた大型木造建築物も建てられるようになりました。



1 熊本県内にある歴史的な伝統建築物



① 八千代座 (山鹿市)

明治43年に建てられた江戸時代の伝統的な様式の芝居小屋。老朽化して利用されなくなっていたものが、市民の運動で修復されました。国指定の重要文化財です。



② 青井阿蘇神社 (人吉市)

現存する本殿、楼門をはじめとする一連の社殿は、江戸時代初めの慶長15(1609)年から4年の歳月をかけて建てられた熊本県唯一の国宝指定の建築物です。

2 県内各地の木造建築物

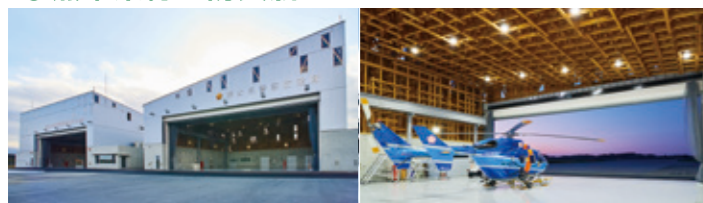
県内には、多くの優れた木造施設があります。木質化された内装は、私たちの暮らしに安らぎを与えてくれます。また、適切に建築された建物は、地震にも強いことが知られるようになりました。



③ 新玉名駅 (玉名市)



④ 熊本県総合防災航空センター (菊陽町)



⑤ 御船街なかギャラリー (御船町)



⑥ 南小国町役場 (南小国町)



⑦ 菊池市泗水公民館 (菊池市)



⑧ 山都町観光文化交流館 やまと文化の森 (山都町)



⑨ 五木村歴史文化交流館 ヒストリアテラス五木谷 (五木村)



⑩ 人吉鉄道ミュージアム MOZOCAステーション868 (人吉市)



⑪ 天草市立本渡東小学校 (天草市)



⑫ 芦北町地域資源活用総合交流促進施設 (芦北町)



⑬ 崎津資料館 みなと屋 (天草市)



3 熊本地震からの復興における木材利用

くまもと型復興住宅

熊本県産材を使用し、地震に強く良質なうえ、被災された方々が住宅再建を無理なく進められるようコスト低減に配慮した、県内の工務店などが建設する木造住宅です。なお、以下の3棟は益城町にあるくまもと型復興住宅のモデル住宅です。



応急仮設住宅

多くの木造応急仮設住宅が建設され、室内の床や腰板などにも熊本県産の杉・ヒノキなどの木材が使用されています。



木造仮設住宅



みんなの家



4 東京オリンピック・パラリンピックへ熊本県からの木材提供

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックで、選手団の入村式やメディアセンターとして活用される「選手村ビレッジプラザ」や、開閉会式、陸上競技などが行われる国立競技場の一部に、熊本県産材が使用されました。

選手村ビレッジプラザに使用された木材は、大会終了後、県に返却され東京オリンピック・パラリンピックの「レガシー(遺産)」として利用されます。



選手村ビレッジプラザへ木材提供する証の木製たて



選手村ビレッジプラザへ提供した木材

東京オリンピック・パラリンピック「選手村ビレッジプラザ」



©Tokyo2020 ※本イメージは変更になる可能性があります。

国立競技場



写真提供：独立行政法人 日本スポーツ振興センター